

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900518		
法人名	メディカル・ケア・サービス茨城 有限会社		
事業所名	愛の家グループホーム石岡山吹	ユニット名	ちどり
所在地	〒315-0141 茨城県石岡市月岡1582-22		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900518-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年1月21日	評価機関 決 済 日	平成27年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

筑波山麓を臨む大自然の中に立地し、四季折々に咲き誇る美しい花々や雄大な景色を一望できる清澄な空気に包まれたホームである。それらを活かしながら、開放的で自由な生活を送れるような生活支援を行っている。

住み慣れた自然環境で『自分らしく生きたい』と願う入居者様おひとりおひとりの個性を最大限に尊重したケアにこだわり、日々の暮らしの中で得意な分野で活躍していただける機会づくり（役割のある生活）を重視している。自分が行っていることを他者に賞賛されることは、本人の生きがいにつながり、意欲をももたらすことを支援を通してスタッフ全体が実感している。

入居者様の平均年齢、平均介護度が高くなっており、日課にとらわれない自由に生活していただくことがかなわないこともあるが、当社ケアの信条である『諦めない想いと絶えない努力』を貫き、チーム全体で話し合いを継続しながら各入居者様の望む生活の実現に向けて創意工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は八郷の四季折々が実感できる自然豊かな場所に立地しており、メディカルケアサービスが事業継承して平成27年1月1日から「愛の家グループホーム石岡月岡山吹」と名称変更となった。

管理者や職員は、地域密着型サービス事業所のあるべき姿をしっかりと捉え、地域との連携など精力的に取り組み、理念にある「その人らしさ」とは何かを常に念頭に置いて利用者本位の支援を行っている。

隣接する保育園の園児が散歩時に来所し、職員がお茶を振る舞ったり利用者が吹くハーモニカの音色に合わせて歌っていくなど、地域の一員として交流が図れるように支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下に当社理念・クレドを掲示し、意識しながら業務にあたっている。毎週月曜日の朝礼（申し送り時）、全体会議の際に唱和し、リマインドの機会としている。新入社員については入社時オリエンテーションで『理念の理解』項目を設け指導している。理念が実ケアに結びついているかどうか、スタッフ会議等で話し合いの場を持っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念と「普通の生活とは」や「ケアの信条」が記載されているクレドを事務室と廊下に掲示し、理念は毎週月曜日の朝の申し送り時と月1回の全体会議で確認し、共有して実践に結びつけている。 常時確認ができるように、全職員がクレドを記載してあるカードを携帯し、常に意識をしながら業務にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を開催、地域消防団や住民の方をお招きし、消防訓練や会食を行った。また、近隣幼稚園の慰問が定期的であり、入居者様から好評を得ている。地元商店街への買い物、お祭りへの参加などの地域参加も積極的にやっている。	年1回事業所主催の地域交流会に、地域住民や消防団、家族等を招待して会食や消防訓練を同時に行い、利用者が交流できるように支援をしている。 地域住民が立ち寄り、野菜のお裾分けを貰ったり、反対に事業所の畑で採れたネギやしいたけを近隣住民にお裾分けをするなど、日常的に交流している。 月1回シルバーリハビリ体操や読み聞かせのボランティアの訪問があるほか、年1回近隣幼稚園の園児が来訪してのお遊戯や鍵盤ハーモニカの演奏は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民も高齢化しているため、折に触れて見守りや認知症に対する相談援助支援を行っている。地元スーパーで、認知症や介護保険に関する相談会を実施し、施設内のみでの支援に終始せず、地域貢献に結びつくよう配慮している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平均して2ヶ月に1度のペースで会議を開催している。ビデオや写真によるサービス実施報告等に加え、施設で実際に行われている行事等へ参加していただきながら、内容の評価、今後の課題について話し合いをしている。構成委員よりいただいた意見・提案を実際のサービスに活かすようにしている。	運営推進会議は市内にある同一法人のグループホームと合同で、家族等の代表や市職員、区長、地域住民代表、在宅介護支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 会議ではビデオや写真による運営状況や空き情報、利用者の状況報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの向上に活かしている。 委員から「脳トレ」が認知症予防になるからと、持参してくれたドリルを日々の支援に取り入れたり、法人のケア事例発表会で優秀賞を表彰された報告も行なっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、サービスの質の向上に関する意見をいただくようにしている。また、介護保険制度上の相談に専門的立場からの指導をいただいたり、実際に行った支援の報告を行い、市の高齢者福祉向上に役立ててもらおう等、協力関係を築いている。	管理者は日頃から市に直接出向いたり、電話等で担当者に事業所の運営状況や空き情報を報告するとともに、介護保険制度の相談をしている。 運営推進会議には市担当者の参加があり、サービスの向上のための助言として、市で行っている「生涯現役プラチナ応援事業」の内容説明を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を行い、スタッフが正しい理解と支援を展開できるようにしている。玄関の鍵は日中は開放し、自由に入出りできるようになっているなど、身体のみならず行動を制限することなく自由に生活していただくことを念頭において業務にあたっている。	身体拘束を行わないことを契約書や重要事項説明書に明記し、入居時に利用者や家族等に説明しているとともに、身体拘束排除宣言ポスターを玄関の壁に掲示して共有している。 管理者や全職員は「身体のみならず行動を制限することなく自由に生活していただく」ことを念頭に置き、玄関は日中施錠はせず、利用者が自由に行き来している。 月1回のミーティング時に研修を行い、身体拘束の内容とその弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めているが、やむを得ず身体拘束を行なう場合に備え、同意書等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、スタッフは虐待防止法について理解した上で業務にあたっている。スタッフ全員が自己覚知をし、統制された情緒でケアにあたる努力をしている。言葉使いや介助方法などについて、スタッフ間で評価・改善できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設管理者は社会福祉士有資格者である。また、現在1名のスタッフが同資格を取得するため通信制の大学に通っている。必要があればいつでも制度を利用できるような準備している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定に関する内容は、文書をもって詳細な説明を行っている。理解ができるまで説明し、同意をいただいた時点でサービスを提供している。生じる不安や疑問点などにはいつでも耳を傾け、繰り返し説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、契約時に重要事項説明書に第三者機関による苦情受付窓口を明記し、利用できる旨の説明を行っている。入居者様からは日々の生活の中で気軽に、ご家族様には面会や行事等で気軽に意見を出してもらえるような働きかけを行っている。家族アンケートを行い意見の収集も実施した。	利用者からは日々の会話から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努めている。 職員は、利用者や家族等からの意見や要望を記録し、全職員で共有している。 玄関内に意見箱を設置したり、家族アンケートを実施したりして、出た意見等を全職員で話し合って改善に取り組むとともに運営に反映させている。 家族等から利用者と一緒に出出したいとの要望があり、大洗水族館や食事を楽しんでもらった。 アンケート結果は、毎月家族等に送付している請求書に同封して報告をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や会議等でスタッフの意見や提案を吸い上げている。職歴や年齢等様々なスタッフがいるので、斬新なアイデアがでることもある。それらをユニット内でどう反映させていくかについても全体で話し合うようにしている。	管理者は毎朝の申し送りや月1回の全体会議、ユニット会議のほか、日々の業務の中でも職員の意見や提案を聞く時間を設けているほか、個人面談も必要に応じて行っている。 備品の購入や事務処理時間の取り方など、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス、各職種ごとの評価項目及び任用要件を整備している。現在自分がどのレベルであるかが明確にわかり、次の目標が見出すサポートを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できる機会を確保している。日々の業務の中で生じた疑問点や理解が不足している知識などを習得できるよう、業務内であっても時間を工夫して指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や、地域密着型施設連携協議会などが実施する各取り組みに参加している。他施設の支援実態を見聞し、当施設のサービスに活かす等の努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や体験入居を行っている。また、入居前に本人面接を行い、身体機能評価や望む生活像、現在困っていることや不安なことなどを伺い、支援方針などを共に考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や相談受付は随時行っている。入居前に家族面接を行い、施設生活に求めること等を詳しく聞き取るようにしている。本人の望む生活と家族の要望に差異がある場合には、その差異を埋めるための橋渡しも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況や医療依存度、経済面、望む生活像を具体的に把握し、必要なサービスは何かを見極めている。必要に応じて、利用できる社会資源のアナウンスをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・洗濯・掃除・畑仕事等をそれぞれの入居者様と協力して行うことで、スタッフ入居者様が支え合って生活をしている。入居者様は人生の先輩であり、生きる知恵を授けて下さることが多く、その都度感謝申しあげている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活における決定を、本人や家族と共に選択していくようにしている。本人と家族の橋渡しを行いながら、入居以前の関係性を維持できるようにしている。面会時はゆっくりと寛げる環境づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人など、本人にとって大切な人間関係が維持できるよう、随時面会を受け付けている。また、馴染みのある場所への外出支援も行っている。	利用者からは日々の関わりの中で、家族等からは話を聴いて利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や馴染みの人が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように配慮をしたり、面会時間は定めなかったりするほか、利用者が行き慣れた店での買い物や外食、墓参り、馴染みの美容室などに行きたい場合には、家族等の協力を得ながら、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性がよりよいものとなるよう、スタッフは観察をしながら橋渡しをするようにしている。家事や畑での作業など、得意な分野で他者を支え、感謝し合いながら生活を送ることができるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に介護サマリーを作成し、施設での様子を具体的に伝えている。転居先はもちろん、本人や家族に対しても、本人の生活の質が向上するような相談支援を継続している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、本人の希望を汲み上げるようにしている。本人の『～したい。』という思いを大切に、また実現できるように、本人・スタッフそして家族で十分に検討し、実践している。意思表示が困難な入居者様に関しては、表情やしぐさ、これまでの生活歴を参考にしながら検討している。	職員はアセスメントシートを活用し、日々の支援の中で把握した思いや意向をケース記録に記載して全職員で共有しているとともに、会話の中から利用者の希望を汲みあげ、その人らしく暮らせるように支援をしている。意思疎通が困難な利用者の中には、利用者の生活歴に基づいて日々の言動や表情などから、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク面接で、本人や家族からこれまでの生活歴や嗜好等を具体的に聞き取るようにしている。サービスの利用歴がある方に関しては、本人や家族の同意の下、サービス担当者に直接問い合わせをするなどして、リアルな情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや様子観察を行い、状況把握と状態評価に努めている。本人の変化に気づく目を持ち、情報をスタッフ間で共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜モニタリング・担当者会議を行っている。担当者会議では、本人や家族・チーム（スタッフ）が意見を交換し合い、本人の望む生活の実現に向けて具体的な話し合いをし、介護計画に活かしている。	計画作成担当者が、利用者や家族等の意向と医療関係者の意見を踏まえて、管理者や職員が参加するユニット会議で話し合い、介護計画を作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画を見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に記入している。また、特に印象に残ったエピソードは私の気持ちシートや申し送りノートを利用し、情報共有に努めている。それらの情報を介護計画に活かし、本人本位の介護計画作成を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスのみにとらわれず、ボランティアや外部資源を利用して、本人のニーズに対応している。また、心身状態の変化に応じて、他介護保険施設の利用も視野に入れ、柔軟な相談支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバー体操指導員に訪問していただき、アクティビティーを行う機会を設けている。また、近隣幼稚園や地元消防団との交流会を企画したり、市内の観光スポットへの外出も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日にかかりつけ医の往診を受けている。また、他医療機関への通院を希望される入居者様に関しては、家族と連携をとりながら通院支援を行っている。往診医への相談は電話を通じて24時間可能である。	協力医療機関以外への受診を希望する場合は、家族等の付き添いを基本としているが、家族等の付き添いが困難な場合には、職員が付き添うなどの支援をしている。家族等が付き添って受診する際には、日々の状況を記入した連絡ノートを渡している。受診結果は申し送りノートに記載し、全職員で共有しているほか、受診に付き添った職員は、受診結果を家族等に電話で報告している。週1回協力医療機関の医師による訪問診療や看護師の来訪など、利用者の健康管理を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に看護師の訪問があり、体調の管理を行っている。かかりつけ医の診察内容や日々の様子・バイタルなどを報告した上で、医療的な相談や指導を受けている。指導を受けた内容は記録し、スタッフ間で共有している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院に際しては、介護サマリーを用いて、施設での本人の様子を詳細に伝えている。入院中は主治医や担当看護師との連絡を密にし、本人の状態を確認するようにしている。主治医からの病状説明には管理者が同行している。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては、入居時に事業所の対応指針を用いて本人や家族に十分な内容の説明を行っている。その上で、緊急時事前指定書を作成する。本人の状態変化に合わせて、その都度内容を確認し、ターミナルケアに関する具体的な方針を決定している。方針は全スタッフで共有し、当施設で行える最大の支援を行っている。</p>	<p>重度化や看取りに関する指針を契約時に説明するとともに、「急変時対応希望書」を作成し、書面による意思確認をしている。</p> <p>利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度意思確認を行って看取りに関する方針を決定するとともに、全職員で共有して支援をしている。</p> <p>「グループホームにおける看取りに関する対応」の研修を管理者が受け、全職員に月1回の全体会議で報告し共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生に関するマニュアルを作成し、常時閲覧ができるようにしている。内部研修等で折りに触れて内容を確認しながら、全スタッフが理解できるようにしている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署立ち合いによる避難訓練を行い、災害発生時の対応方法について学んでいる。また、地域交流会で地域消防団や近隣住民をお招きし、避難経路の確認や災害が起こった場合の具体的な協力要請を行った。</p>	<p>避難訓練を年2回実施するとともに、地域住民や消防団が参加し、避難経路の確認や災害時の救援協力を要請しているが、夜間想定訓練を実施するまでには至っていない。</p> <p>避難訓練の記録を残し、結果や反省点を明記して全職員で話し合い、次回の訓練に活かしている。</p> <p>消防団から非常口の勾配が急すぎることや、避難経路に物が置いてある事の指摘を受けて改善した。</p> <p>災害に備えて食料品や水のほかに、懐中電灯やビニール手袋などを備蓄し、リストを作成して2ヶ月毎に確認をしている。</p>	<p>年2回の避難訓練のうち、1回は夜間想定訓練を実施することを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを人生の先輩として敬っている。居室に入室する際、介助に入る際は、内容をきちんと説明し、同意を得てから行うようにしている。排泄介助や入浴・清拭介助に関しては、羞恥心に配慮してさりげない声かけと気配りを持った介助を行っている。	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけや対応を心がけている。 月1回の内部研修で「接遇マナー」を学び、日ごろから言葉かけやプライバシーに配慮した対応を行なっている。 個人情報ファイルは、事務室の鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、本人の希望が表出されやすい関係性づくりを大切にしている。意思決定に関しては、可能な限り本人に委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当社理念やクレドに掲げている『その人らしい生活』や『あたり前にあるべき普通の生活』とは何かを全スタッフが念頭に置き、業務にあたっている。日課をこなしていく生活ではなく、本人の希望や意思にそった生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、基本的に本人に行っている。2ヶ月に1回散髪があり、本人の希望にそったヘアスタイルにしている。家族に協力していただきながら、シーズンごとに本人の好む洋服を持参していただいたり、衣類を購入するための外出も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内に畑があり、入居者様とスタッフが協力して野菜を栽培・収穫している。季節に応じた新鮮な野菜を使って、出来る範囲で調理や後片付けにも携わっていただき、食事を楽しんでいる。献立は入居者様の嗜好になるべく近付けるよう工夫している。	献立は利用者の希望や嗜好を取り入れたり、自家菜園で収穫した旬の野菜や地域住民のお裾分けを食材に加えたりして管理者が作成している。 利用者は職員と一緒に食材を地元のスーパーマーケットに買いに行ったり、ジャガイモやニンジンの皮剥き、テーブル拭き、挨拶、下膳、洗い物などを行っている。 魚やパンが苦手な利用者には代替食を用意している。 職員は利用者と同じ献立を一緒に摂り、話をしながら和やかな雰囲気ですべてできるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェックを行っている。好き嫌いの有無や治療食対応の入居者様に関しては、出来る範囲で代替を提供するなどの工夫をしている。食事の開始時間の目安はあるが、本人のペースで食事を摂っていただくようにしている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア誘導を行っている。口腔ケアに介助を要する方には、スタッフが説明し、毎食後介助を行っている。本人の口腔内の状況により、適切なケア用品を用いている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導だけでなく、排泄チェック表を用いて本人の排泄パターンをつかみ、適宜誘導も行っている。また、表情や行動から、排泄のタイミングを読み取るなどの工夫も行い、トイレで排泄ができるように支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄サインを把握するとともに、排泄チェック表を活用して本人に合わせたトイレ誘導や声かけ支援している。 廊下や居室等に放尿してしまう利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をすることで放尿回数が減り、自立に向けた支援を行なっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳酸菌を多く含むメニューを用いたり、水分を強化するなどして、便秘を予防している。また、冷たい牛乳を飲んだり、生活に運動を取り入れながら、自然な排泄を促す工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴支援を行っているが、体調や気分に合わせて変更するようにしている。入浴拒否があった場合には無理強いをせず、清拭や足浴を行い清潔保持に努めている。入居者様がゆったりと入浴できるよう、適切な声かけを行ったり、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。	週3回午後からの入浴を基本としており、希望があれば夜間19時までの入浴は対応できるようになっている。 入浴を拒む利用者には、声かけや誘導の時間を変えたり、職員を替えて無理なく入浴ができるように工夫をしている。 3年間湯船に入ることを拒んでいた利用者が、声かけや職員配置を替えるなどで、安心して入浴ができるようになった。 菖蒲湯や柚子湯、入浴剤の使用など、入浴が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過ごす場所は、基本的に本人に決定していただいている。居室で休息をとったり、共有スペースに設置しているソファでぼんやり過ごしたり、戸外のベンチで寛ぐなど、本人の意思に委ねている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を綴っており、常時確認できるようになっている。服薬支援に関しては、適切に内服ができるようダブルチェックを行うなど、細心の注意を払っている。副作用の有無、症状の経過などを確認し、内服によって生じた変化を確認し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技を生活に活かせるよう、入居者様それぞれに役割がある。強制するのではなく、役割を通じて存在価値が再認識できるような支援を行っている。個別の嗜好に合った内容で企画するお楽しみ計画や行事等を通して、日常生活にはない特別な楽しみを持つ機会も設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の『～に行きたい。』『～がしたい。』という思いを汲んだ外出支援や行事を企画している。また、初詣や墓参り、馴染みの店での買物や自宅への帰省など、必要に応じて家族と協力しながら行っている。施設周辺の散歩の際などには、地域住民の方に声をかけていただくなど、温かく見守っていただいている。	<p>天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを肌で感じられるように支援をしている。</p> <p>利用者が「買い物に行きたい」や「どこかにでかけたい」など希望があると、管理者と職員ですぐに相談をし、外出支援に取り組んでいる。</p> <p>初詣や墓参り、大洗水族館、落語の観劇などの外出で気分転換を図っている。</p> <p>家族等に働きかけて協力を得、利用者の希望する馴染みの店での買い物や自宅への帰省を支援している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て2000円程度の金銭を自己管理されている方もいるが、基本的に事務所にて金銭の管理をしている。買物外出の際などは、スタッフ見守りの下本人に会計をしていただいている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、いつでも事務所から電話ができるようにしている。ご家族や友人・知人からの電話は、その都度本人に取り次ぐようにしている。手紙については、はがきの購入や投函の代行を行い、自由に手紙のやり取りができる支援を行っている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットのホールには、季節感のある壁紙や入居者様とスタッフが協力して作成した作品を掲示している。清掃と整理整頓を心がけ、心地よい環境づくりを全員で行っている。入居者様からの希望により、家具のレイアウトを変えたり、入居者様が使いやすい共有スペースづくりを心がけている。温度や湿度・光は、日直が主体となって管理している。	<p>居間兼食堂の大きな窓や天窓からは自然の光が入るほか、利用者と職員で制作した絵馬を飾り付けをするなど、利用者が季節を感じて過ごせるように配慮をしている。</p> <p>利用者の希望で家具のレイアウトを変え、使い易く思い思いの場所でゆったりと過ごすことが出来る環境となっている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはひとりひとりの椅子が用意してあり、繕い物をしたり、新聞を読んだり、思い思いに過ごしていただくことができている。また、ソファに座りテレビ鑑賞をしたり入居者様同士で談笑をしたり、自由に過ごすことができる環境になっている。また、戸外にはベンチを設置、1人の時間を持つ入居者様もおられる。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを自由に持ち込み、配置していただいている。仏壇や位牌を持ち込んでいる入居者様もおられる。身体機能に合わせて、リスクがない限り、自由な空間づくりが可能である。	エアコンやベッド、箆笥が備え付けられている。 畳の生活を希望する場合は畳を敷き、自分に合った居室作りが出来るように支援をしている。 使い慣れた婚礼家具の姿見や収納ケース、置時計などの身の回り品を持ち込んでいるほか、好きなカレンダーや完成させたジグソーパズルを飾るなど、居心地良く暮らせるように、一人ひとりの生活スタイルに合った工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に障害物は置かない、風呂やトイレにはその旨を大きく表示し、居室には表札を掲げ、わかりやすくしてある。また掃除用具や文房具・本などの使用頻度の高い物の置き場所を固定し、入居者様に取り出しやすい場所に配置することで、本人が自立した生活を送れるよう工夫している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム石岡山吹

作成日 平成27年6月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回避難訓練は実施しているものの夜間想定 の避難訓練の実施に至っていない。	年1回以上夜間想定 避難訓練を実施する。	毎年4月と10月に法定避難 訓練を実施しているが、 10月の避難訓練を夜間想 定として実施する。また、 法定訓練以外にも自主訓練 として夜間想定訓練を3ヶ 月に1回程度実施する。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。